

2017年 7月26日 水 → 10月1日 日



8. 森装う

1階 展示室 なが 樹々を眺む

No.	作品名	原画制作年 ※は制作年	寸法(cm)	材質・技法	取材地
1.	しょうてい 松庭	1956(昭和31)年 ※	142.7×182.5	紙本彩色	千葉県市川市、鬼越
2.	しゅんきゅう 春丘	1959(昭和34)年	30.4×41.0	リトグラフ	長野県山ノ内町、志賀高原
3.	こうよう 黄葉	1962(昭和37)年 ※	57.9×40.6	リトグラフ	
4.	きたくに もり 北国の森	1963(昭和38)年	25.5×36.8	木版画	デンマーク、フレデンスボー
5.	とうじゅ 冬樹	1963(昭和38)年 ※	29.0×25.4	リトグラフ	
6.	しゅうよう 秋耀	1965(昭和40)年	32.2×44.5	木版画	長野県軽井沢町
7.	はくば もり 白馬の森	1972(昭和47)年	30.4×44.6	木版画	富士山五合目のブナ原生林
8.	もりよそお 森装う	1972(昭和47)年	37.7×53.0	リトグラフ	長野県戸隠村
9.	わかば きせつ 若葉の季節	1972(昭和47)年	43.0×61.0	リトグラフ	ドイツ北部
10.	よしの はる 吉野の春	1973-85(昭和48-60)年頃	37.3×53.0	リトグラフ	奈良県、吉野
11.	せいしょう 静唱	1981(昭和56)年	31.5×46.0	リトグラフ	フランス、パリ郊外・ソー公園
12.	しゅんちよう 春兆	1982(昭和57)年	30.6×42.2	木版画	デンマーク、コペンハーゲン
13.	みどり まど 緑の窓	1983(昭和58)年	48.0×60.7	リトグラフ	ドイツ、ラムサウ
14.	しゅうさい 秋彩	1986(昭和61)年	44.6×61.0	リトグラフ	京都市右京区、小倉山付近
15.	せいしん 静晨	1990(平成2)年	28.2×44.5	リトグラフ	長野県長野市郊外
16.	もりわかば 森若葉	1990(平成2)年	45.0×60.6	リトグラフ	長野県安曇村、上高地
17.	げつこう 月光	1998(平成10)年 ※	64.8×92.3	麻布彩色	山形県山形市、蔵王

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

東山魁夷略年表

1908年(明41) 7月8日、横浜市生まれ。1911年、神戸市に転居。本名「新吉」は、坂出市榑石島出身の祖父の名をもらったもの。  
 1926年(大15/昭元) 18歳 東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科入学。  
 1931年(昭 6) 23歳 東京美術学校研究科に進み、結城素明に師事。雅号を「魁夷」とする。  
 1933年(昭 8) 25歳 東京美術学校研究科修了。8月渡欧しベルリン大学でドイツ語を学ぶ。  
 1934年(昭 9) 26歳 第一回日独交換留学生に選ばれ、ベルリン大学哲学科美術史学部入学。  
 1935年(昭10) 27歳 父の病気の知らせを受け、留学期間1年を残して帰国。  
 1945年(昭20) 37歳 召集をうけ熊本に配属。終戦後、千葉県市川市に移って制作を再開。  
 1947年(昭22) 39歳 第3回日展に出品した《残照》が特選を受賞、風景画家として立つことを決意。  
 1950年(昭25) 42歳 第6回日展に《道》を出品、好評を得る。

1953年(昭28) 45歳 第9回日展に《たにま》を出品。  
 1956年(昭31) 48歳 日本芸術院賞を受賞。  
 1959年(昭34) 51歳 第2回新日展に、榑石島を描いた《暮潮》を出品。  
 1962年(昭37) 54歳 4~7月まで北欧4カ国を写生旅行。  
 1968年(昭43) 60歳 皇居宮殿壁画《朝明けの潮》完成。「朝明けの潮／京洛四季」展開催。  
 1969年(昭44) 61歳 4~9月までドイツ、オーストリアを旅行。文化勲章受章、文化功労者に選ばれる。  
 1973年(昭48) 65歳 「白い馬の見える風景」展開催。  
 1974年(昭49) 66歳 改組第6回日展に《夕静寂》を出品。  
 1975年(昭50) 67歳 唐招提寺御影堂の第一期障壁画《山雲》《涛声》を奉納。  
 1980年(昭55) 72歳 唐招提寺御影堂第二期障壁画の三題《黄山晓雲》《揚州薰風》《桂林月宵》を奉納。  
 1998年(平10) 90歳 第30回日展に《月光》を出品、最後の日展出品作となる。  
 1999年(平11) 91歳 5月6日、逝去(90歳)。



10. ベルゲンの家

2階  
展示室

白夜の季節—北欧を歩く

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	取材地
1.	ウプサラ風景 <sup>ふうせい</sup>	1963(昭和38)年	60,3×92,4	紙本彩色	スウェーデン、ウプサラ
2.	エルシノアの街 <sup>まち</sup>	1963(昭和38)年	60,0×81,0	紙本彩色	デンマーク、エルシノア
3.	『北欧紀行 <sup>ほくおうきこう</sup> 古き町にて <sup>ふるまち</sup> 』	1964(昭和39)年	39,5×30,0×5,4	リトグラフ装画本	
4.	「地図 <sup>ちず</sup> 」	1964(昭和39)年	35,0×53,8	リトグラフ	
5.	「コペンハーゲンの街角 <sup>まちかど</sup> 」	1964(昭和39)年	25,5×35,4	リトグラフ	デンマーク、コペンハーゲン
6.	「オールフスの古い町 <sup>ふるまち</sup> 」	1964(昭和39)年	26,0×36,0	リトグラフ	デンマーク、オールフス
7.	「内庭 <sup>うちわ</sup> 」	1964(昭和39)年	21,5×18,3	リトグラフ	デンマーク
8.	「北の大地 <sup>きた たいち</sup> 」	1964(昭和39)年	32,0×24,0	リトグラフ	スウェーデン
9.	「ストックホルムにて」	1964(昭和39)年	35,9×26,0	リトグラフ	スウェーデン、ストックホルム
10.	「ベルゲンの家 <sup>いえ</sup> 」	1964(昭和39)年	25,7×35,5	リトグラフ	ノルウェー、ベルゲン
11.	「二つの月 <sup>つき</sup> 」	1964(昭和39)年	33,5×26,0	リトグラフ	フィンランド、ヘルシンキ
12.	「オランペンリンナ城 <sup>じょう</sup> 」	1964(昭和39)年	21,5×22,7	リトグラフ	フィンランド、オランペンリンナ城
13.	「ヴィラットの教会 <sup>きょうかい</sup> 」	1964(昭和39)年	35,3×25,5	リトグラフ	フィンランド
14.	「エーゲスコーフ」	1964(昭和39)年	29,2×23,5	リトグラフ	デンマーク、エーゲスコーフ城
15.	「オーデンセの古道具屋 <sup>ふるどうぐや</sup> 」	1964(昭和39)年	35,3×25,7	リトグラフ	デンマーク、オーデンセ
16.	「看板 <sup>かんばん</sup> 」	1964(昭和39)年	36,0×54,0	リトグラフ	デンマーク

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

版画の豆知識

版画はさまざまな版の形式と技法がありますが、木、金属、石、絹といった版材でつくる版形式は大きく4つ(凸版、凹版、平版、孔版)に分類できます。

木版画(凸版:とつはん)

浮世絵などで伝統的に用いられてきた技法。木の板を彫刻刀等の刃物で削り、デコボコを作ります。凸(トツ)の部分に絵具を塗り、紙をのせて圧力をかけて擦ります。凸の部分に塗った色だけが紙に写し取られます。

銅版画(凹版:おうはん)

木版画とは逆に、銅板に鋭利な刃物でキズをつけ、凹(オウ)の部分にインクを詰め、紙をのせて圧力をかけて凹(オウ)の部分のインクを刷り取ります。銅板を直接削って描画する「直接法」と、酸溶液に浸けて銅を腐食させることによって凹みをつくる「腐蝕法(エッチング)」があります。

リトグラフ(平版:へいはん)

表面を平らに磨いた石灰石(石板)の上にクレヨンや油性のインキなどで直接描き、その上に弱酸性溶液を塗ると、化学反応によって描かれた部分は油分を引き付け、描かれない部分は水分を保持するという、油が水をはじく原理を利用した技法。作画した部分にだけインクがつくように加工し、その上に紙をのせてプレス機で刷ります。

シルクスクリーン、セリグラフ(孔版:こうはん)

一枚の厚紙に適当な形の孔をあけ、その下に一枚の紙を置き厚紙の上から顔料を刷り込むと、顔料が孔を通り、その孔の形をそのまま下の紙にうつし取ることができます。この単純な原理から出発したのが孔版と呼ばれる版形式です。

版画の余白部分には何らかの記号が記され、それぞれに意味があります。

「○/▲」エディションナンバーといひ、分母(▲)は発行部数、分子(○)は通し番号を意味する数字が入ります。(例)「54/250」

「E.A.」épreuve d'artiste(仏) 作家保存用 「A.P.」 artist's proof(英) 作家保存用 「H.C.」 hors commerce(仏) 非商業用つまり作家や工房が保存する

※当館所蔵の版画作品は東山魁夷が所有していた保存版で、ほとんどの作品がE.A.と記されています。

ミュージアムトーク

当館学芸員による作品解説を行います。

11:00~11:30(観覧券必要)

◎8月5日(土) ◎8月19日(土)

◎9月2日(土) ◎9月16日(土)

次回展覧会

秋の特別展「信濃と山と東山魁夷—長野県信濃美術館コレクションから—」

会期=2017年10月7日(土)~11月26日(日) 観覧料=一般・大学生610円

魁夷は、自己の画風を求めて山河をめぐり、多くの題材を信濃に求めました。本展では、長野県信濃美術館の協力を得て、信濃の山々やその暮らが見える作品と魁夷の風景画などから、魁夷が愛してやまなかった信濃の風景と山々の魅力に迫ります。また、香川県に生まれ、明治38年に日本山岳会を設立し、紀行文作家、浮世絵・版画コレクターとして活躍し、山岳風景画の発展に影響を与えた小島烏水(1873-1948)をあわせて紹介します。



香川県立  
東山魁夷せとうち美術館  
Kagawa Prefectural Higashiyama Kai Setouchi Art Museum

〒762-0066 香川県坂出市沙弥島字南通 224-13

Tel 0877-44-1333 Fax 0877-44-0220 <http://www.pref.kagawa.lg.jp/higashiyama/>